

IPM研究の取り組み

農業環境研究部

近年の農業では、これまでの農薬中心の病虫害防除と異なり、病虫害に強い品種の利用や天敵による害虫抑制、反射マルチなど害虫が嫌う資材の利用など、様々な病虫害防除技術を総合的に利用する総合的病虫害管理（略称：IPM）が注目されています。

今回は当センターにおいて研究に取り組んでいるIPM技術を代表して、ミヤコカブリダニの利用によるカーネーションのハダニ防除について紹介します。

カーネーションの葉に発生するハダニは、吸汁されると痕が白く残り（図1）、花の商品価値を低下させ、また高い繁殖能力と農薬抵抗性の発達のしやすさから、特に防除に注意が必要とされる害虫です。

このハダニに対して、天敵農薬として市販される「ダニ捕食性のダニ」であるミヤコカブリダニを導入し、防除試験を行いました。

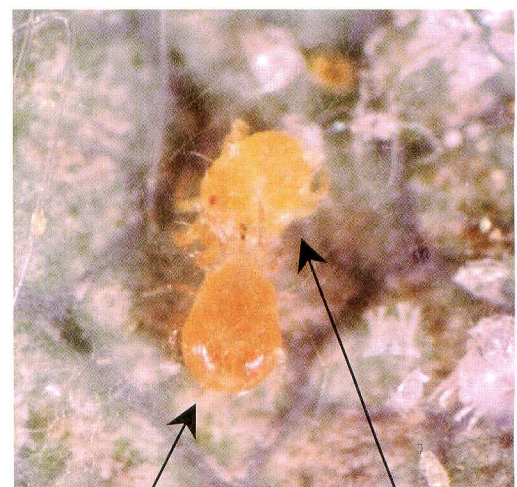
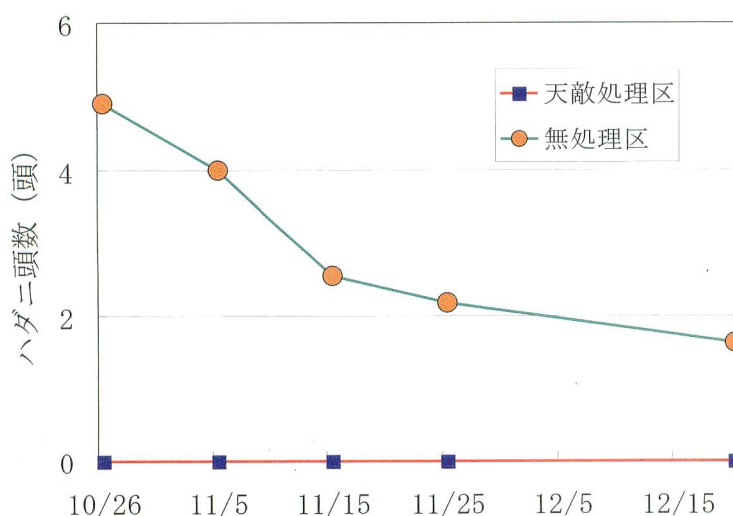
その結果、処理区ではハダニの発生は確認されず、ミヤコカブリダニがハダニの発生を長期間抑制していました（表1）。

当センターではカーネーション以外にイチゴやナスなどでもIPM技術の開発に取り組んでおり、これからも環境にやさしい農業を推進するための研究を行っていきます。



図1 ハダニに吸汁されたカーネーションの葉の様子

表1 ハダニ数の推移(20葉あたりの平均)



ミヤコカブリダニ
(成虫:体長 約0.3mm)

ハダニ

図2 ハダニを捕食するミヤコカブリダニの成虫